聯隊機密　第二六六號

聯合艦隊命令

三十八年四月十三日
於C地点　三笠

一、去ル十日アナバ群島附近ニ在リシ敵ノ第二艦隊其後ノ動靜ニ就キ未タ確實ナル情報ナシト雖從來ノ諸情報ヲ綜合スルニ敵ハ較ヤ高速ヲ以テ急ニ此近海ニ來ラントスルノ疑アリ

二、聯合艦隊ハ尚敵ノ動靜ニ注意シテ其北上ヲ待チ我進ヲ以テ彼ノ労ニ乘シ一挙ニ之ヲ擊滅セントス

三、上村第二艦隊司令長官ノ指揮スル混成支隊ハ此作戰ノ畫端トシテ浦塩港外ニ千四百個ノ機械水雷ヲ急速沈置スルノ目的ヲ以テ已ニ出發シ第二艦隊ノ警戒以下ハ來十七日迄ニ當地ニ集合ス、又第三艦隊ハ竹敷ヲ根據トシ來十七日ヨリ南方ニ對シ哨戒ヲ嚴ニシ特ニ第六警戒線上ニ仮裝巡洋艦三隻ヲ配備ス、

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

四、當地ニ集合セル第一、第二艦隊ノ諸隊ハ敵ノ出現ニ應シテ直チニ出發對州北方ニ於テ中央幹線上ニ占位シ敵ノ進行方向ニ依リ機宜行動ス　第三艦隊ノ主力モ同時ニ出動シ敵ヲ海峡内ニ誘致牽制スルト同時ニ敵ニ追躡シテ我カ主隊ニ合スルノ目的ヲ以テ特ニ與ヘラレタル命令ニ基キ行動ス

五、来ル十九日前後上村混成支隊カ當地ニ航航・進上スル陸軍一部ヲ海峡南部ニ發見スル等ノコトアルモ其項ノ如ク出動シ左幹線（上村支隊ノ航路）上ニ於テ第一、第二艦隊ヲ合シテ敵ヲ迎撃スル隊定ム

六、右出動中天候ノ異変ニ應ズル駆逐隊、艇隊等ノ集合地点ヲ蔚山港トス

七、敵ニ會スルヲ得ハ特令アル外豫定戦策ニ準シテ極力攻撃ス

特ニ駆逐隊、艇隊ノ夜戦ニ於テハ右其一隊ヲ以テ少ナクモ敵ノ一艦ヲ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

轟沈ニ努メ魚雷攻撃ノ結果不確実ナル場合ニハ断然
突貫連撃水雷ヲ以テ最後ノ目的ヲ果スベシ

八、特務艦隊ハ各艦隊戦后ノ炭水、兵器、弾薬ノ急速補充
ノ準備ヲ整ヘ且ツ戦場ノ掃除シ戦果ノ収穫ヲ保護スル用
意アルヘシ

九、以作戦中通信連絡ハ最モ肝要ナルカ故ニ無線電信ヲ有スル各艦
ハ不急不要ノ送信ヲナサザルニ注意シ損傷等ノ為ノ已ヲ得ズ
根據地ヘ還ル艦モ通信輻輳ノ場合ニハ別ニ之ヲ報告スルニ及
ハズ

十、今後ノ一海戦ハ蓋シ大局ノ決スルトコロナルヤキヲ以テ我聯合艦隊
ノ上下各員ハ各其職責ニ應ジテ畢生ノ心力ヲ竭シ必勝ヲ期
シテ有終ノ成効ヲ遂ケ以テ帝国隆興ノ基礎ヲ翼成セサル可カラズ

聯合艦隊司令長官東郷平八郎

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

0314

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

四月十四日 金曜 晴 風力一ヨリ二

鎮海港

午前 八〇〇、 前甲板員ノ外衣囊ヲ最下甲板ニ收納ス

仝 一〇〇〇、 「ウイングス」ニ石炭積込方用意及雜業、

仝 一一三〇、 艦長ヨリ訓示アリ其要領次ノ如シ

午后 一一三、 「ウイングス」ニ石炭詰方及雜業、

夜間八直哨兵

海軍

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

四月十四日　磯長訓示、給炭、於後甲板、鎮海湾、

敵状ニ就テ非ニ希望、

最近ノ情報ニ依レバ「バルチック」艦隊ハ已ニ仮泊シタルアナムバヲ発シ北航ノ途ニ在ルモノヽ如シ、之ヲ彼我ノ里程ニ由リテ打算スルニ来ル廿日頃ニハ或ハ當方面ニ来着スヘシ、我等ハ是非共之ヲ全滅セザレバ止マズ、尤ソ敵ヲ全滅スルハ一ニ砲熕ノ打撃ト機関ノ健全ナルニ在ルコト屢々述ベタルガ如シ、尚一層勉励注意ニ注意ヲ加ヘ、尤ノ個條ヲ守ルベシ、

(一)過日ノ磯砲射撃ニ於ケル本磯ノ成績ハ四七発砲命中弾数百分比四六弱ニシテ第一戦隊中ノ第五位、十二所砲ハ百分比五十二ニシテ全第二位、六平砲ハ百分比六十一弱ニシテ第一位、十二平砲ハ百分比五〇ニシテ他ノ三戦磯ト成績ヲ全ジウシ全体ノ平均成績ニ於テハ本磯ハ第三位ニ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

属ス然レ共實戰ノ際特ニ効力ヲ発カル可キ六吋砲以上ノ成績ニ於テ優ニ第一位ヲ占ムルハ聊カ余ノ満足ヲ表スル所ナリ、此度ノ戰ハ實ニ海上權ノ取脱延イテハ和家ノ存亡ニ関スルモノニシテ此海戰ハ不日開始セラルル可キモノナレバ吾等ハ最早其レニ對シ別ニ準備スル事ナシト雖モ重要物件ノ水準線下ニ格納スル等艦内ノ諸準備ヲ完成スベシ仝時ニ砲ノ一番ハ可成雑業ヲ免ジ可及的内膳砲射撃ヲ励ミ成績ヲシテ愈々良好ナラシムル事ニ努ム可シ

(二)機関部員ハ對敵ノ場合機関ニ故障生ズレバ陣形ヲ乱シ遂ニ不覚ヲ来スモノナルコトヲ常ニ其警ニ銘シ機関ノ状態絶始完全無缺ナラム事ヲ期セヨ・機底ノ下糸屑塵埃等ノ存留スル如キハヤガテ驅水ヲ行ハントスル時ニスルイスバルヴヲ閉塞シテ其目的ヲ達セザラシムル原因ト為ル

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ヨトハ余ガ曾テ退速ニ於テ経験アリ而シテ浸水ノ結果艦体沈没ニ至ラザルモ傾斜スレバ発砲ヲ不能ナラシムルヲソテ直ニ駆水ヲ為サザル可ラズ駆水ハ此場合尤モ大切ナレバ「スルイスウアルブ」ノ實用検査又艦底下ニ於テハ糸屑塵埃等ヲ其儘放擲シ置クガ如キ不注意アルベカラズ、

(三)

夜中警戒ニ就テ、

頃者動モスレバ中甲板砲門其他ヨリ燈光ノ漏ル事アリ、是ハ曾テ日高沖ニ於テ充分厳格ニ励行セラレシモノナレバ用後敵敵奥キノ日久シキニ及ビ聊カ緩ニ流レタルノ觀アリ、敢テ故意ノ行為ナリトハ言ハズ彼等ハ唯奥意識ノ裡ニ之ヲ為セルナリ故ニ注意シ更ニ注意シ注意シ奥フルコト数々ニシテ疎漏ノ度漸ク少カルベシ昔ハ水雷艇防禦ニ於テ全然燈火ヲ滅シタルモノナレバ余ハ其レト意見ヲ異シ危

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

急ノ場合衝ノ眠ヨリ覺メタル乘員ヲシテ暗黑裡ニ迷ハザラシムル為ノ特ニ上甲板ニスラ其ノ足下ヲ照スベキ燈火ヲ備エシム

蓋シ其ノ頗ル必要ナルト共ニ極力減レザラシムル事ハ乘員各自注意ナリ、責任ナリ徒ニ燈火ノミアラズ萬事凡テ然リ

一本ノ「ボルトピン」ノ類ト雖モ其常態ヲ失セルヲ見バ直ニ其レニ對スル疑問ヲ惹起シ能ク迄モ完全ナル解決ニ終ルノ注意相互ニ必要ナリ、

中下甲板ノ常夜燈ニハ常ニ蝋燭ヲ備ヘザル可ラズ蓋シ電氣燈ハ何時如何ナル変ニヨリテ全滅スルヤ測リレザレバナリ、曾テ吉野沈没ノ際電燈ノ主線切断シテ其處ニ暗黑界ヲ現出シタル為ノ應急ノ事業モ遂ニ混雜ニ終リタル例アリ、注意セザル可ラズ

(四)

航海中操舵機ハ尤モ緊要ナリ殊ニ其ノ一ヶ所破損シタル時之ヲ他ニ移ス等故障ノ際應急ノ處置ヲ為シ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

瞬時ニ操舵ヲシテ不能ノ事無カラムハ重要ナリ、豫メ充分ノ注意ト素養トヲ要ス、

（五）行動ノ秘密ニ就テ、

言フ迄モ無キ事ナレ目下ノ行動ハ嚴ニ秘密ニ保タレザル可ラズ故ニ書ニ充分ノ注意ヲ拂ヒ決シテ饒事ヲ記ス可ラズトハ是レ迫嚴禁シテル通リナリ此ノ敵狀明瞭ナル時ハ吾レ大ナル便アルガ如ク吾ノ狀態彼レニ知ルレバ彼亦便ニスル事大ナリ、サレバコノ行動ノ秘密ハ嚴ニ保タレザル可ラズ此ノ如キハ其都度之ヲ訓示セズトモ各自ノ常識ニ訴ヘテ注意ナカラム事ヲ望ム、過日ハ日本トカノ新聞ニ出羽挽隊ノ行動ヲ書シアルヲ見タリ之レハ誠ニ全挽隊ノ乘員ヨリ洩レタルモノニハナキカ兎ニ角新聞記者ノコトキハ徒ラニ奇ヲ好ム素人ニシテ行動秘密ノ價値ヲ認メザルモノナレバ彼等ヲ責ムル

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ヨモ寧ロ其ノ源泉タル吾等ニ於テ敢言ム可キナリ、

(六) 五百六十噸ノ石炭ヲ一時間半ニシテ搭載シタル昨日本艦ノ載炭成績ハ実ニ目覚シキモノニシテ正ニ世界ニ冠タル可キモノ、是レ偏ニ副長以下乗員一同ノ熱心ナル尽力ニ依ルモノニシテ深謝措カザル所ナリ

(七) 露國第二太平洋艦隊ノ我行序列告知及ビ其艦型ニ付テ二三ノ質問ヲ発シテ次回戦闘ノ相手タル可キ敵艦ノ名称、艦型位ハ砲員トシテ成ルベク速ニ記憶セザル可ラズトノ訓示ヲ最後ニ次回ノ戦闘迄各自衛生ニ注意シテ益々健全ナラム事ヲ祈ル云々

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

四月九日　土曜　晴　ロシヤ風力一　鎮海湾

午前八、〇五、「ウインゲス」ニ石炭積入方及雑業

午后一、二五、右仝　及水筒砲射撃

夜間八直哨兵

本日艦長ヨリ準士官以上ヘ訓示アリ要領次ノ如シ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

四月十五日　艦長訓示、準士官以上、於後甲板、鎮海湾、

(一)倉庫点検ニ就テ、

一、重ヲ艦長日令ニ於テ規定セシ如ク倉庫内両側ニ通路ヲ設クルコト可燃品其他危険物乗ニ重要物ハ可及的水準線ヨリ下方ニ格納スルコトニ定メ置キタレ共一二ノ倉庫ニハ積遺憾ノ点ヲ認ム直ニ格納替ヘスヘシ、

尼ノ物品ニハ其價値ニ軽重アレバ宜シク考察シテ其貴重ナルモノハ餘リ貴重ナラザルモノヨリモ下方ニ格納セザル可ラズ、

倉庫内ハ勿論中下甲板ノ各常夜燈ハ何レモ至急点火ノ用トシテ蠟燭ノ備エザル可ラザルニ猶ホ一二ノ缺クルモノアリ　充分ナル注意ヲ與ヘン事ヲ望ム、

一、伊果院信管ハ勿論其他砲科水雷科用ノ火工品ノ検査及取扱ニ関シテハ此際能ク迄値重ノ態度ヲ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

甚シク検査ト一層ノ注意ヲ怠ル可ラズ

一、各倉庫内ニハ電気燈消滅ノ場合ニ至急使スベキ蠟燭燈ノ用意ヲ命シ置キタル一二ノ倉庫ニ其用意ヲ欠クモノアリ直ニ設備シテ其注意ヲ怠ルベカラズ

(二)戰鬪ノ準備ニ就テハ士官ノ交代アリシ為メ更ニ一言シ置ク

一、各士官私室ニ於テ「カーペット」ハ不用ナレバ之ヲ下方ニ格納ス可ク「カーテン」ハ或ハ必要ナルトスレバ残留シテ之レヲ捲回シ置ク可シ箪笥ノ抽出ニ関シテハ各自ノ隨意ニ任スト雖モ可成ハ不用ノ衣服其他ハ一二ノ抽出ニ入レ副長ニ請ヒテ水線下一定ノ場所ニ格納ス可シ、

一、此度防弾用トシテ各「ウエンダ」ニ石炭ヲ納ム是ハ其ノ掛リノ者ノミナラズ他ノ士官モ亦之ヲ知ラザル可ラズ否單ニ此ノ事ニ限ラズ萬

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

事務ノ事胸裡ニ含マレ居ルヲ要ス、蓋シ應急ノ場合處置スベキ方法ニ差異ヲ生ズレバナリ、

一、防水扉ノ状態ハ敵度ノ操練ニ依リ今ヤ正ニ完全ナベシト思惟スルモ尚ホ僅少完ナラトモ日々ノ事業トシテ之ヲ試走スル可シ

一、航海長従属モ新シケレバ更ニ注意セム、戰鬪ノ際御聖影ノ保護、秘密圖書類ノ格納乃至運搬等ニ関シテハ平素豫メ其ノ準備ヲ為シ置ク可シ、尤ッ人間横着ナル性質ノモノナレバ一旦走メタル事ト雖モ敵面前ニ在ラバ兎モ角、敵與ヤ事久シキ時ハ自然弛緩ニ陥リ易キヲ以テ宜シク注意スベシ蓋シ油断ナラザルコトヲ忘ル可ラズ

一、戰鬪ノ際各飲料水罐内野水等ニ関シテハ軍醫官ノ注意ニ要スレバ施設ヲ望ム戰鬪前兵員ノ服裝洗濯、入湯等ニ係ルモノ亦然リ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

一、氷ハ糧食庫用ノ外負傷者ノ手当用ニシテ必要ナレバ豫メ麦量ノ製氷ヲ要シ自後缺乏セシム可ラズ

一、此際后部ノ「スターンアンカー」及ビ不用ノ「ダビット」等ヲ撤シ其重量ニ代ヘルニ后部「チェイン、ロッカー」内石炭格納ヲ以テセントス、

以上、本職ノ希望ナリ其他各官ニ於テ認識セルモノ、適当ト思惟スル事項又近日自差修正操舵交換試験ノ為ノ出港セントス特ニ試ミル必要アリト思フ施設等アラバ速ニ提出ス可シ、

航海中

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

聯合艦隊日令第二二號

三月八日午前五時　於C地点三里　東郷聯合艦隊司令長官

一、戰機益々切迫スルニ至リ八聯合艦隊ハ加徳水道ニ位泊スルコトアルヘシ其際ニ於ケル各隊ノ錨地ヲ左ノ通リ豫定ス

夜中出動ニ際シテハ竹島東方ノ四口吹岩及大島嶼ニ燈火ヲ点スルコトアルヘシ

加徳水道泊地圖

水路軍概第一〇六号ト同尺度

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

四月十六日　日曜　午前晴　午后雨　午前ハ風力一、
午后北東風力二、　鎮海湾
午前八、四五　雜業、
仝　九、二〇、　内筒砲射撃
午后一、一五　雜業及内筒砲射撃
仝　二、三五　糧食搭載
夜間八直哨兵

海
宿

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

聯隊第三三一號

麾下艦艇ハ此際一層左ノ諸項ニ注意シ精細ニ檢査ヲ行ヒ其整頓ヲ努ムヘシ、

明治三十八年四月十六日、

聯合艦隊司令長官東郷平八郎、

一、艦艙ニ通スル諸孔即チ「ハッチ」通風筒等ノ周囲ニ設ケラレタル「コフアーダム」ハ釣床、衣嚢、帆布及麻糸屑ノ類ヲ填充シ決シテ機具、木材金物等ヲ入レ置クヘカラス、

二、舵機、堰戸弁、海水弁、排水弁、換氣弁等ヲ動作スル鋸歯車接合、衛帯筐等ノ鉛、留金、衛帯等ハ固着スルコトナク又抑マリ物等ナク動作軽快ニシテ効用ノ充全ナルヲ確ムル可シ、

三、舵機ノ故障ハ最モ寒心スヘキモノナレハ「テレモーター」ノ革衛帯

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

自動装置「テルテール」ピッチチェイン、アリクショカップリング、ギスコンチリチンダギヤ」其他諸部ノ「ローラー」鉸、留金等ハ最注意シテ遺漏ナク其整備セルコトヲ確ムヘシ、

四、戦闘中ニ於テハ水線下防水扉防水蓋等ハ如何ナル場合ト雖モ明放シ置クヘカラス故ニ石炭庫防水扉ノ如キハ石炭ヲ出ストキノミ之ヲ開キ終ラハ直チニ閉ツシ而シテ其ノ方ナル石炭ハ常ニ出口附近ニ繰リ出シ置キ其ノ方ナル防水扉ヲ開キ置クコト勿カラシムヘシ、

五、「ラムミング、チョク」ハ其支持確實ナルヤ又「ホルヂング、ダウン、ボルト」ハ充分緊締セラレヤ諸室ノ物体ハ激動ノ為メ跳躍スルモノアラザルヤ否ヤ確メ置クヘシ、

飛機砲架其他豫備動力ノ装置アルモノハ屢其変更装置ノ操練ヲ行ヒ一刻モ速カニ変更ヲ為シ得ル程

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

度ニ達セシムルコトヲ努ムヘシ、

七、諸油槽油管ニハ決シテ塵芥ヲ入ラシメザルベキ防禦ヲ施シ最清浄ニ保ツヘシ又油管屈曲部ハ決シテ油ノ溜滞スル如キ垂レ下リタル所ナカラシムルニ派サハ船ノ動揺又ハ操舵ノ為メ傾斜シテ給油ヲ不正ナラシムル患アリ最注意シテ直シ置クヘシ若支障アリテ直スコト能ハサル特別ノ場所ハ注油手ニ特別ノ注意ヲ為サシムヘシ、

八、各区隔水ニ若シ浸水アリテ傾斜シタル場合其釣合ヲ直ス處置ニ就テハ豫メ研究シ置クヘシ

了

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

四月十七日　月曜　曇　風力一ヨリ三　鎮海湾

正午　北緯三四度五六分　東経一二八度五〇分

午前　七、一二、　投錨　出港　自差修正ノ為メ湾外ニ向フ、

仝　七、四〇、　各科雑業、

仝　八、一五、　自差修正ヲ始ム、

午后　一、一五、　雑業、

仝　三、一五、　自差修正及各羅計儀比較結了、

仝　三、三五、　前司令塔操舵機破損ノ仮想ヲ以テ弾薬通路ニ於テ操舵異状ナシ、

仝　五、〇〇、　前錨地ニ投錨ス

夜間八直哨兵

本日後司令塔、弾薬通路、舵機室内羅針儀ハ修正セズ比較ノミ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

十七ヶ

海軍筆記長織内誠太郎乗艦

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

聯隊機密第二七六號

戰鬪實施ニ就キ麾下一般ニ訓示

我聯合艦隊ハ敵ノ来ラサルヲ待ムコト勿レ我常ニ待ツアルヲ待ツテ鋭意戰鬪力ヲ蓄養シタレハ今再ヒ新来ノ敵ヲ撃滅セントスルニ當リ本職ハ又茲ニ何事ノ言フヘキナシト雖モ尚ホ此最終ノ戰ニ際シ寸毫ノ遺算ナカランコトヲ期シ左ニ三ノ訓示ヲ與フルモノナリ

一、作戰ノ萬事警戒ヲ最要トス、大敵ヲ怖レス小敵ヲ侮ラス常ニ敵ノ来ラサルヲ恃マス我常ニ待ツ處アレハ決シテ不覺ヲ執ルヘキモノニアラス、古来往々實戰ノ後ニ悔事ヲ残スハ敵ニ乘セラルヽ我ノ虚アリシヲ以テナリ油断ハ大敵ナリ寸時細事ニモ警戒ヲ怠ル可ラス、

二、戰鬪ニ於ケル士氣ノ消長ハ戰果ニ關係スルコト頗ル大

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ナリ戰場ノ経歴少キモノハ大抵敵ヲ強ノ見我ヲ弱ク感スルヲ常トス是レ敵艦内ノ惨害等ハ我之ヲ見ル能ハサルモ我ノ被害ハ常ニ心目ニ觸ルヽヲ以テナリ、血路ヲ開キテ逃走セントスル敵艦ヲ見テ我ニ迫撃シ来ルモノト誤リ或ハ敵力困憊ノ極唯々砲弾ヲ乱射スルヲ見テ我ヲ猛撃スルモノト認ムル等ノ實例ナキニアラス 特ニ戰酣ニシテ勝敗方ニ決セントスル際ニハ實際勝戰ナルニ自ラ苦戰ト感スルコトヲ多シ、故ニ我レ苦戰スルトキハ敵ハ甚敢信モ苦ムルモノト觀念スルヲ可トス、古ノ兵家之ヲ七分三分ノ叶合ト成ム即チ敵七分我三分ト思フ時ハ實際五分五分ナリトノ謂ナリ

三、已ニ合戰スルニ當リテハ又防禦ヲ言フノ要無シ、積極ノ攻撃ハ最良ノ防禦ナリ、假令非裝甲艦ト雖モ我カ猛火ヲ以テ敵ノ砲火ヲ撃壓スレハ是レ取リモ直サス最良ノ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

裝甲ヲ有スル艦ニ対シ我砲数少キ場合ニ於テハ其照準及射距速確實ナルトキハ恰モ我砲数ヲ倍加セルカ如シ、黄海海戰ニ見ルニ敵ノ砲ハ本来其発射速度ノ緩慢ナルニナラス又一ツハ我下瀬弾ノ爆煙ニ照準ヲ妨ケラレ我ノ三発スル間ニ彼一発スルノ比例ナリ故ニ我一門ハ能ク彼ノ三門ト対抗スルヲ得ヨ況ンヤ我射撃ノ練度ハ遙ニ敵ニ優ルアルニ於テヲヤ、

四、實戰及射撃ノ経験ニ依ルニ一艦砲火ノ指揮ハ必ス来得ルヘキ艦橋ニテ掌握シ射距離ハ艦橋ニ帰合シ砲基ニテ毛頭之ヲ修正セサルヲ可トス殊ニ實戰ニ於テ其然ルヲ覚エ砲戰酣ナルトキハ一艦各砲ノ弾着ハ素ヨリ各艦ノ砲弾一所ニ集注シ其何レカ我弾着ナルヤヲ分別スル能ハス故ニ一艦ノ全砲ハ同一ノ射距離ニテ発射シ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

其弾着ヲ見テ全砲ノ射距離ヲ修正スルヲ要ス斯クスルトキハ
艦橋ヨリノ射距離不當ナル場合ニハ全砲弾ヲ失フト雖モ
適良ナレハ全砲弾ノ命中ヲ得結局ノ統計ニ於テ命中
公算ヲ増加スルコト疑ヲ容レス、
又魚雷攻撃ハ水雷其物ノ機能ニ往々欠点アルト発射位
置ヲ得ルノ難キト　夜中敵艦ノ針路速力ヲ測定スルノ困難
ナルトニ依リ大ニ其奏効ヲ確實ナラシム、然レトモ内薄攻撃
スルトキハ距離ノ短縮ニ依リ前記ノ三欠点ヲ消滅セシム、果
然水雷攻撃ノ結果不充分ナルニ就テハ世界已ニ其評論
区区シ深ク戒メサル可カラス、若シ夫レ連繋水雷ニ至リテハ
大ナル技能ヲ要セス唯タ断然敵前ヲ通過スルニアルノミ
五、戰術實施ノ要訣ハ已レノ欲セサル処ヲ敵ニ施スト全時ニ
敵ヨリ施サレサルニアリ故ニ斯クサレハ甚ト思考スルコトハ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

我ヨリ先ツ施スコト肝要ナリ敵利ニ對シテ丁寧ヲ
要ス我ニ有利ナルト全時ニ敵ヨリ施サル、トキハ我ニ
不利ナリ、我レ敵ノ駆逐隊ニ急襲サルヽニ苦ムト悟
レハ我ヨリ之ヲ行ハサルヘカラス、露人ノ天性ハ概シテ
受身的ナリ我ハ之ヲ利シテ常ニ先ツ制セサル可ラス
明治三十八年四月十七日

聯合艦隊司令長官東郷平八郎

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

四月十八日 火曜 晴 区々風力一ヨリ二

鎮海湾

午前九、一五、 雜業、

仝 九、五五、 第二戰隊第三戰隊及特務艦旅順尤以下諸艦帰港ニ際シ登舷礼式ヲ行ヒ其成効ヲ祝ス、

仝 一〇、五〇、 内筒砲射撃、

午后 一、一五、 雜業、内筒砲射撃、

仝 五、二〇、 雜業、砲員高声電話ノ説明ヲ聽ク、夜間八直哨兵、

主理吉村幹三郎、中主計上田範治、筆記長伊保釧太郎退艦、

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

四月十九日、水曜、曇雨、午前ヨリ風力ヨリ二、午南西風力二ヨリ五、

鎮海湾

午前 九、〇五、 内筒砲射撃及雑業、

午后 一、一五、 砲具手入、雑業、内筒砲射撃、

仝 五、〇〇、 頃ヨリ風雨強盛晴雨計降下天候険悪トナル

仝 七、五〇、 錨鎖四節半ヲ七節ニ延ス

夜間八直哨兵

大主計服部正之乗艦、

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

四月二十日　木曜、雨、区々風力一乃至二、

鎮海灣

午前　八、一五、砲具手入、雜業、

午后　一、一五、雜業、

仝　一、三〇、頃ヨリ濃霧来リ約二時間ニシテ霧晴ル

夜間八直哨兵、

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

四月二十一日 金曜、 晴、北風力一乃至二、

鎮海湾

午前九、二〇、 内膳砲射撃及雑業、

午后 一、一五、 内膳砲射撃、菓英検査手入、

漲水弇検査(實地漲水)及雑業、

信号練習古、

仝 五、二〇、 四等水兵端舟橈漕、下士及一等卒

救急法練習古、雑業、

夜間八直哨兵、

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

[redacted]

聯隊機密第三六六號ノ二

聯合艦隊命令

一、當隊カ対州海峡附近ニ於テ敵ト會戦シ晝戦終ラスシテ日没ニ至ル時ハ特令アルノ外甚聖朝ノ會合地点ヲ(W)地点(松島)ノ北側ト豫定ス

二、右ノ如ク戦隊ノ晝戦ヨリ駆逐隊艦隊ノ夜戦ニ移ルニ當リ彼我ノ混雑ヲ豫防スル為ノ晝戦ノ戦場カ中央幹線以東ノ地區ニアルトキハ各戦隊ハ先ツ西方ニ変針シ夜陰ニ入リ北方ニ轉針シテ會合地点ニ急ク

又若シ又中央幹線以西ニアルトキハ右ニ反シ先ツ東方ニ変針シ次テ北方ニ轉針スルモノト豫定ス

三、又対州以南ノ地區ニ於テ當隊ノ大部若ハ一部カ敵ト對抗中日没ニ至リ夜中水道ヲ北過スル場合ニハ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

情況ノ許ス限リ可成對州ノ東西両側ニ豫定シアル通路ヲ航スルモノトス而テ其東西何レノ通路ヲ執ルヘキヤハ敵若シ東水道ニ向フ如クナレハ我ハ西通路ヲ執リ之ニ反スレハ東通路ヲ執ルヘキモノトス

四 當隊敵ニ對シ出動ノ場合ニハ駆逐隊艇隊ノ炭水補給ノ為ノ蔚山港及三浦湾ニ水雷母艦ヲ配備シ傍ラ通信連絡ヲ保持セシム

聯合艦隊司令長官東郷平八郎

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

四月二十一日土曜、晴、区々ノ風力一ヨリ三、鎮海湾、

正午 北緯三四度五七分、東経一二八度五四分

午前 七、二六、揚錨自差側定ノ為ノ出港ス、

仝 八、〇五、湾外ニ出テ戰闘用意、次テ自差測定ヲ始ム

仝 九、二五、戰闘準備試験、雑業、

午后 一、〇〇、艦長ヨリ士官以上ニ告達アリ其要領次ノ如シ、

仝 一、〇七、戰闘操練、

仝 一、二一、應急操舵変換試験ヲ施行ノ為メ

前部司令塔破壊ノ仮想ヲ以テ伝部司令塔操舵ヲ命ス、

仝 一、二二、右整備、

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

午后 一、三三、 前操舵室傳話管破損（仮想）前司令塔傳話管復旧、

仝 一、三五、 後部司令塔破壊（仮想）前部弾薬通路ニテ操舵ノ令アリ、

仝 一、三七、 右整備、

仝 一、五六、 前操舵室傳話管復旧、

仝 二、〇五、 主舵機破損（仮想）補舵機使用ノ令アリ

仝 二、〇七、 右整備、

仝 二、二一、 補舵機破損（仮想）人力操舵令アリ

仝 二、二三、 右整備、人力舵機ニ配セシ人員十二人ナリ

仝 二、四〇、 舵機室傳話管破損（仮想）左舷汽機室ヲ経テ言令ス故障ナシ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

二、五〇、諸操練止メ、
〃 二、五二、人力操舵ヲ止メ前司令塔ニ復旧、
〃 二、五五、自差測定再始約一時間ニテ止ム、
〃 四、五八、戰闘用意復旧、
〃 六、二八、從前ノ錨地ニ碇泊、
艦位 佐不利嶽ム東北一四浬、加治島ム南六十五度東、
漆川島二六六ム南、水深十一尋半 底質泥、
〃 七、一〇、十二尹、六尹、彈藥積方、
〃 八、一〇、右結了、
夜間八直嘯矢、

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

四月二十二日、艦長訓示、於前艦橋　準士官以上、巨濟島沖

(一)本日施行セントスル操練ニ就イテノ豫告並注意ヲ與フ

一、本日ハ十海里ノ速力ニテ操舵機ノ破損ヲ假想シ前司令塔ヨリ後司令塔、後司令塔ヨリ彈薬通路等一ツノ場所ヨリ他ノ場所ニ変換スル事及主機ヨリ補機、補機ヨリ人力等一ツノ機械ヨリ他ノ機械ニ変換スル事ノ操練ヲ為サントス此間砲塔ニテハ各通信器ノ破損ヲ假想シテ操練ヲ為シ其変換應急ノ有様ヲ實地ニ見テ試驗スヲ可シ又機関部ニ於テハ其最モ起リ易キ故障ノ原因ニ就イテ操練攻究ヲ為シ有時ノ日聊カモ不安ノ個所無カラシムルヲ期スヲ可シ

二、午后二時頃ヨリ自差側定ヲ行ヒ以テ大砲ニ関スル操練ハ凡テ一時間ニテ止メ之レヲ定位置ニ固定スベシ大砲ニ関セザ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ル他ノ中下甲板ニ於ケル諸操練ハ継続スルモ妨ケズ、

一、各砲ニ演習弾及減装薬ヲ備フ可シ、

一、本日ハ又負傷者運搬ノ操練ヲ為サントス運搬手ガ如何ニ負傷者ノ許ニ至リ之レヲ治療所ニ致スカヲ見ルベシ

一、人力操舵ニ用ユル人員ハ後部防火隊十六人ヲ以テ之レニ充ツ可シ、

(二)諸官ハ本日ノ此ノ操練ノ間艦橋ヨリノ命令ガ如何ニ中下甲板ニ傳ハルカヲ注意ス可シ此レガ為メ時限ヲ整合シ各受持場所ニ於テ号令ノ到着セル時刻ヲ記註シ艦橋ヨリ発セシ時刻ニ比較シ後日ノ参考トシテ表ニ製シ置カントス、

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

四月二十三日、日曜、晴、区々風力一、鎮海湾、

午前八、一〇、嚴島丸ヨリ英炭積込ヲ始ム、

仝 九、二〇、右結了成績表左ノ如シ、

午后 〇、三〇、手洗濯、掃除、入浴、

仝 五、三〇、直升、機関兵、掌砲兵軍歌、

夜間八直哨兵、

成績順	分隊	搭載開始時間	仝上結了時刻	所要時間	搭載額	仝上時間平均	仝上総平均
二	二	午前八、一〇、	午前九、一九、	一時九分	八二噸	七二、二トン	二四四トン
一	四	仝右	仝九、一四、	一時四分	八二噸	七七、六トン	
三	三	仝右	仝九、二〇、	一時十分	一二〇噸	一〇二、六トン	
五	五	仝右					

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

聯合艦隊日令第二六號

三月八日午前十時
於C地点三笠　東郷聯合艦隊司令長官

一、麾下諸艦ハ別紙計畫要領ニ準シ減装薬戰鬪射撃ヲ施行スヘシ、

二、射撃施行ノ順序ハ隊號順序ニ依リ先ツ第一戰隊ヲ始メ明後二十五日ヲ以テ其初日トス、

三、本射撃ハ一日ニ成ルヘク六艦ヲ終ラシムルヲ要ス、

四、C地点ニ在ラサル艦船ハ便宜其所在地附近ニ於テ計畫要領ニ準據シタル射撃ヲ施行スヘシ、

（終）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

減装菓戦闘射撃計畫要領

一、本射撃ハ一艦乾施行シ専ラ主務將校ヲシテ射撃ノ指揮法ヲ練磨セシム

二、本射撃ニ使用スル演習彈数及射撃航路射距離左表及附圖ノ如シ

砲種	一門ニ付彈数
十糎砲以上	貳
八糎砲	四
十五珊十二珊砲	六
十二吋砲	一〇
五十七瓩砲以下	一〇

但シ八糎以上砲ヲ有スル艦ハ十二吋及其以下砲ノ射撃ヲ行ハス、

五十七瓩砲以下ハ駆逐艦水雷艇ニ限リ発射セシム

三、駆逐艦水雷艇ハ前項ノ彈数ヲ用ヒ正横ノ距離ヲ千八百米突ニ短縮シタル射撃航路ニ依リ施行スルモノトス

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

四、射撃標的ヲ地矣水吹島全部トス

五、射撃艦ノ速力ヲ十海里（特務艦駆逐艦水雷艇ハ適宜）トシ航路浮標ヲ設置セス

六、射撃成績ハ命中弾（跳撃弾ヲ算入ス）ノミヲ以テ算定ス

七、射撃ハ各艦一通過ヲ以テ規定ノ弾数ヲ発射シ終ルヘキモノトス不発其他砲具ノ故障等ノ為メ規定ノ時期ニ於テ発射シ得サル弾丸ハ他砲ヲ以テ発射スルコトヲ得ルモノトス

八、各隊ノ定ムル所ニ依リ射撃中一艦ハ吹島ノ北東約五千米突ノ位置ニ在テ監的ヲナシ又将校及下士卒若干名ヲ玉女山ニ出シ監的ニ任セシム但シ特務艦水雷艇ノ射撃ニハ監的艦ヲ置カス監的艦及玉女山監的員ハ射撃艦各艦ノ射撃ヲ終リタルトキ総命中弾数ヲ射撃艦ニ通報スルモノトス但シ玉女山ニテ計算シタルモノヲ以テ成績トス

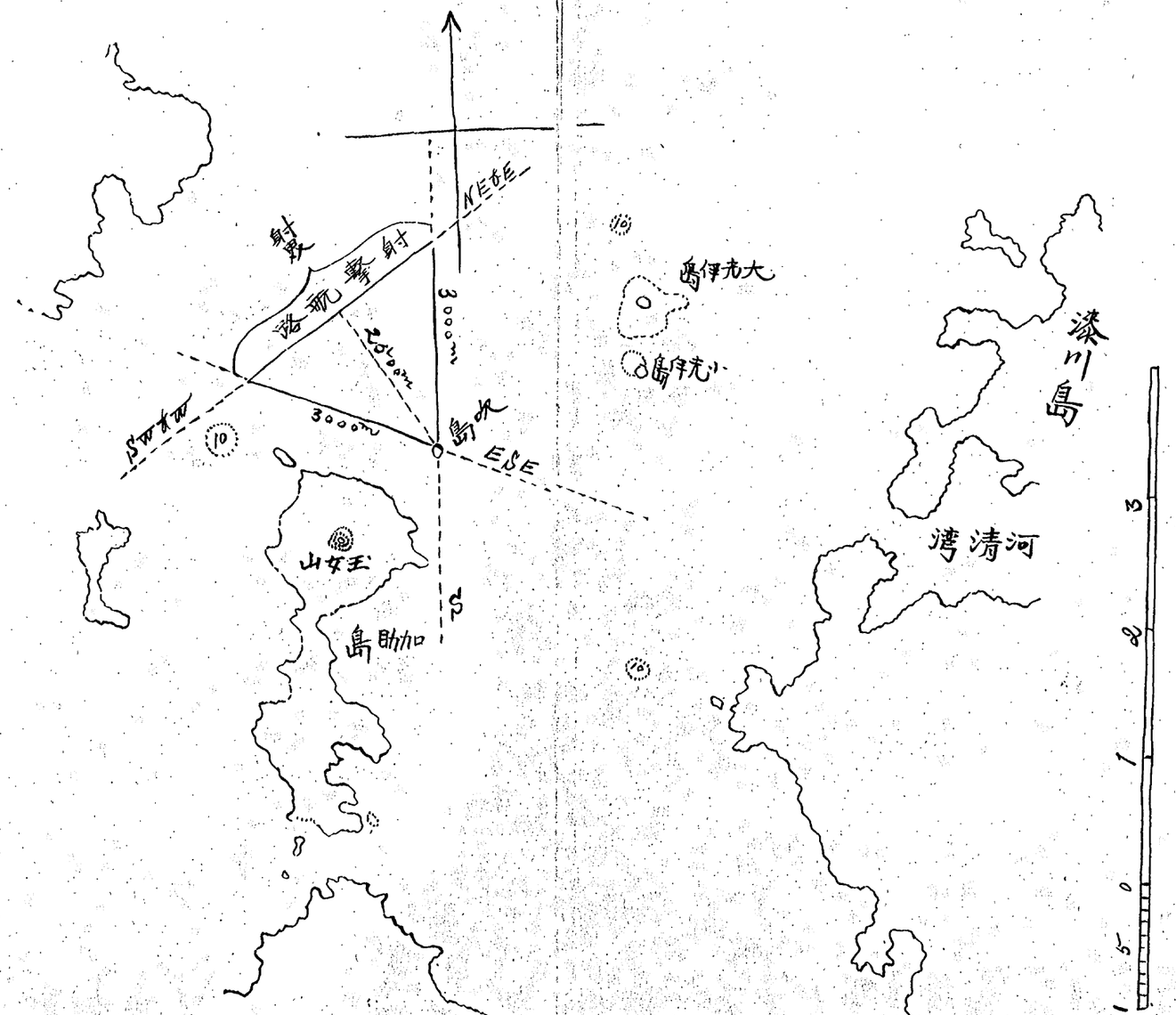
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

九、各艦ハ射撃結了後砲煙射撃規則ニ依ル射撃成績表（砲煙射撃成績表第二表）ヲ調製シ之ニ射撃中発生シタル砲具故障ノ有無並ニ本射撃ニ於テ講究シ得タル事項ニ就キ報告ヲ所属長官ヲ経テ聯合艦隊司令長官ニ呈出スルモノトス

海

亟

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp



0355

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

四月二十四日 月曜 曇雨、之々風力一乃至三、

鎮海湾

午前八、〇五、 十二尹、六尹砲員明日ノ實彈射撃ニ就キ砲術長ノ講話ヲ聽ク他雜業、

午后一、一五、 雜業、

仝 四、五〇、 艦長ヨリ射撃及敵情報ニ關シ訓示アリ其要領次ノ如シ

仝 六、一五、 十二尹、六尹砲員、彈藥庫員戰闘射撃準備ヲナス、

夜間八直哨兵、

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第一戦隊日令第九號

三十八年四月二日
於C地点三笠

東郷第一艦隊司令長官

一、當隊（龍田ヲ除ク）ハ明廿五日聯合艦隊日令第千六號ニ依ル減装藁戦闘射撃ヲ施行ス、

二、三笠ハ午前七時其他ノ諸艦ハ便宜出港大先伊島ノ北東ニ集合シ艦隊番號順序ニ従ヒ射撃ヲ行ヒ結了ノ後便宜帰港スヘシ、

三、射撃施行ニ関スル細項ハ各艦砲術長ヲシテ協定セシム、

四、射撃結了後速カニ照尺ノ目盛輸ヲ常装藁用ノモノニ改装シ厳密ナル照準器検査ヲ施行スヘシ、

（終）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第一戦隊減装兼戦闘射撃施行ニ関スル細項

一、射撃艦、監的艦ノ組合左ノ如シ、

射撃艦　　監的艦

三笠

敷島（第四ノ隊列）……春日

富士

朝日

春日（主後ノ隊列）……敷島

日進

二、監的艦ノ位置ヲ吹島ノ北東約五千米突トス、

三、各艦ヨリ左記人員ヲ玉女山ニ出ダシ先任将校ノ指揮ヲ受ケ監的ニ任セシム、

将校　一、信号兵　一、兵曹　一、水兵　一、

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

但シ先任将校ハ朝日ヲ出ス可キモノトス、

富士ノ監的員ハ信号器具ヲ携帯スヘシ、

四、監的員ハ午前五時半迄ニ富士ニ集合スヘシ、

富士艦載水雷艇ヲ監的員ノ加助島往復ニ使用ス、

監的員監的準備整頓セハ整備旗ヲ掲揚スルモノトス、

五、射撃艦射撃運動中ハ B 旗ヲ半揚シ射撃中ハ之ヲ全揚シ射撃全ク結了セハ之ヲ降下スルモノトス、

六、監的艦及監的員ハ射撃中弾着ノ遠近ニ関スル信号ヲナス射撃艦ハ一発ノ射撃ヲ終ル毎ニ発射弾数ノ信号ヲ陸上監的所及監的艦ハ総命中弾数ヲ信号スルモノトス但為シ得ル限リ命中弾数ヲ砲種ニ区分シテ記載シ置キ射撃結了後先任陸上監的将校及監的艦司令長官ニ報告スルモノトス、

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

七、命中弾数信號ニハ計数旗ヲ有ス、

八、射撃班ハ玉女山監的員ノ信號ニハ同一信號ヲ以テ應答シ監的班ノ信號ニハ計数旗(應旗)ヲ以テ應答スルモノトス、

了、

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

四月二十四日　艦長訓示、総員、於中甲板、　鎮海湾

一、減装薬戦闘射撃ニ就テ、

豫テ総員ニ告知シタル減装薬戦闘射撃ノ目下対敵ノ状況ニ於テ少シク餘裕アルヲ以テ明日ヨリ施行セラルヽトナレリ其方法ハ全ク戦闘射撃ノ要領ニ従ヒ規定ノ弾数ヲ発射スルニアリテ一舷側砲ハ一通過ニ終ヘ他ノ舷側砲ハ他ノ一通過ニ於テ発射シ終ル筈ナレバ距離ノ変化少ナク命中ノ期スル確實ナル巨点ニ至レバ急射撃ヲ令スルヿアレド其他ハ五射撃ヲ以テス各射手ハ最モ沈着ニ発射シ充分良好ナル命中ヲ期セザルベカラズ　一故障等ノ生ジテ一通過ニテ終ラザリシ砲アレバ次ギノ通過ニ於テ発射セシム尚調ハル順序方法ニ就テハ後刻砲術長ヨリ詳シク説明スル所アルベシ、

今朝来主務者ヲシテ照準器其他砲ノ検査及ビ演習

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

弾薬ノ銅環薬筐ノ検査修正ヲ命ジ置キタレバ遺憾ナク整備シタルベシト信ズ若シ尚足ラザル所アレバ明朝ハ七時出港ノ豫定ナレバ明日ハ其時間ナキモノト認メザルベカラズ故ニ今夜ハ之ニ完成シ置クベシ、

二、先般施行セラレタル演習弾射撃ニ就イテハ、

先般施行セラレタル演習弾射撃ハ我海軍全般ノ成績トシテハ最モ良好トハ云ヒ難シト雖ドモ各艦共ニ約四十五パーセントノ成績ヲ得タルハ稍々可良ナルモノト云フヲ得ベシ而シテ本艦ノ六十糎砲ハ六十パーセントヲ得今日マデ余ガ各艦ノ成績ヲ見ルニ之レニ匹敵スルモノナシ即チ我ガ六十糎砲ハ当地ニ於ケル総艦中ノ第一位ヲ占メタルナリ又十二糎砲ニアッテ我レハ五十パーセントヲ得唯出雲ノ八糎砲四発ノ内三発ヲ命中シ得タルヲ何レモ五十パーセント以下ナリ然ルニ十二糎砲ニアッテ本艦ハ五十六

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

「パーセント」ナルニ浪速ハ七十五「パーセント」ヲ得即チ十二吋砲ニアツテ浪速ハ艦
艦中最上ノ成績ヲ収メタリ之レニヨリテ見レバ本艦射撃ノ
訓練ニ尚充分ノ餘地アルヲ認メザルヲ得ズ益々奮励シテ
百発百中ノ域マデ進達スルヲ期スルハ我ガ三笠乗員一同ガ
挙ツテ其力ヲ協セ熱誠ヲ之レニ注ガズンバアラザルナリ、

三、距離通報器ニ就テ、

距離通報器ノ必要ナルハ従来屢々訓示シタル如ク実戦
中必然避クベカラザル発砲ノ音響ト激動・間断ナキ
傳令・敵弾ノ命中其他有ラユル種類ノ騒擾ノ為メニ
艦内ノ挙ゲテ混雑ノ裡ニ没シ激昂セル砲手ノ耳ハ聾
シテ其用ヲナサザルキニ至リ能ク艦橋ヨリ出ツル重要ナル
諸種ノ号令ヲ各砲台ニ通信シ得ルモノハ一目シテ識別シ
得ル唯一ノ距離通信器アルガ為メナリ故ニ其使用法ニ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

就テ毎日軍事点検ノ際ニ練習ヲ行ヒ居ルモ尚十分ナル成績ヲ得ザルハ甚ダ遺憾トスル所ヨリ今近ク去ル廿一日ニ行ヒタル試験ノ結果ヲ見ルニ司令塔ヨリ出シタル号令ノ総数五十五ニシテ六平一番砲ニテ全点ヲ得タル外凡テ多少ノ失点ヲ有セリ而シテ右舷側砲台ノ器械ハ呉ニ於テ作リタル舷側ノモノハ関東丸ニテ作リタル各砲台ノ成績ヲ比較シ見ルニ右舷側砲台ニアッテ一番砲ノ全点アリト雖モ他砲ニテ十以上ノ失点ヲ数フルモノアリ又左舷側砲台ニ見ルニ全点ノモノナシト雖モ概ネ其失点ノ数右舷側砲台ニ比較シテ少ナキヲ見レバ全ク器械ノ良否ニヨルニアラズシテ傳話管ノ配置ニアル人ニヨリテノ此差ヲ生ジタルモノト云ハザルヲ得ズ果シテ然ラバ失点多キ砲台ノ傳話管員ガ不注意ニシテ号令ヲ聞キ違ヘタルカ或ハ号令ノ指示ヲ利鐶スルノ能カヲ欠キタル者之レヲ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

記註シ能ハザルカノ二途ニ依セザルベカラズ各砲台長ハ其配員ノ撰拔及ビ訓練ニ関シテ充分ニ配慮セラレ、必要アルヲ認ム、

四、敵艦隊ノ情報ニ就イテ、

過日来佛領カムラン湾ニ碇泊シタル敵ノ第二艦隊ハ本月二十一日マデハ全地ニアリタルモ其後ノ行衛不明トノ情報ヲ得タリ想フニ敵ノ目的ハ甚幣カヲ費ヤシテ我レト一決戦ヲ試ミントスルカ或ハ飽マデモ潜行シテ浦塩艦隊ニ合セントスルカノ二途ノ外ニ出ヅザラン総員ノ熟知セルガ如ク「カムラン」湾ヨリ当地方マデハ十浬ノ連カヲ以テスレバ一週日ニテ達シ得ラル、ナリ然レドモ甚遠中石炭ヲ積ミ入レザルベカラズ為ニ尚一二日ヲ要スルトシ遅クモ来月上旬中ニハ必ズ此好敵ヲ迎フルヲ得ベシ毋論訓示シタル如ク此海戦コソ今ヨマデ我ガ得タル制海権ヲ奪ヒ殲滅スルカ或ハ反ツテ敵ノ為メニ得ラル、ヤノ分ケ目ニシテ君ト

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

制海權ニシテ敵ノ手ニ落チンカ我レノ今日マデニ得タル海陸ノ
百勝モ一朝ニシテ水泡ニ帰セザルベカラズ我レハ如何ニシテモ此敵ニ
勝タザルベカラズ敵艦隊ヲシテ一艦ダモ我日本海ニ近カシメズ一
隻モ殘ス之レヲ撃滅セザルベカラザルナリ　一度此敵ヲ破レバ敵
海軍ハ真ノ全滅ニシテ復タ起ツ能ハズ戰局モ此ノ一
戰ニヨテ決スト云フベシ、
則チ明日施行セラル、戰闘射撃ハ新来ノ敵艦隊ニ対シテ
我ガ砲力ノ自信力ヲ益々確固ニナスモノナレバ全ク敵艦隊
ニ向テ発射シ之レヲ撃滅スルノ覺悟ヲ以テ一弾タリ共
空弾ヲ発スル事ナク充分良好ナル成績ヲ擧ケン事
ヲ切ニ希望ス、

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

四月二十五日、火曜、曇、区々ノ風力一、鎮海湾、

午前 六、五四、 揚錨、聯合艦隊日令第二六号ニ基キ戰闘射撃ノ為ノ吹島附近ニ向フ、

〃 七、一五、 戰闘用意、

〃 七、二六、 戰闘演習弾薬ヲ備フ、

〃 七、五七、 右舷十二糎、六糎砲吹島ニ向ヒ戰闘射撃開始、

〃 八、〇七、 右終リ、

〃 八、二三、 左舷十二糎、六糎砲射撃開始、

〃 八、三三、 右終止成績表次ノ如シ、

〃 八、四二、 戰闘用意復旧碇泊地ニ向フ、

〃 一〇、二四、 従前ノ錨地ニ碇泊、

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

艦位　佐多重巖△東北加治島頂南4東1/2東
濟州島二十六△南一度西　水深十一尋　底質泥

午后　一、一五、　内筒砲射撃　雜業　照準検査

仝　五、三〇、　艦長総員ニ訓示アリ　其要領次ノ如シ、

仝　九、〇〇、　戦闘操練　水雷艇防禦　次ヲ二直噴兵配備
砲治艦ニ對スル駆逐艦夜撃演習施行、

仝　九、五五、　某三駆逐隊ノ来襲ヲ発見探照燈ヲ
照ラズ発砲ノ手續ヲ為ス、

仝　一〇、三〇、　右演習結了續ヲ開散八直噴兵ヲ配ス、

射撃成績表　見カ　一
使カ　十五

砲種	射撃発数	発射弾数	命中弾数	百分比
十二糎	26000 3/1	8	5	62.5
六糎	26000 3/1	84	14	16.7

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

破治本艦ニ對スル第三駆逐隊襲撃記事

天候　曇天闇黒　海上平穏　無風

要目	時刻	距離	本艦	敵艦	本艦	敵艦	敵艦位置	記事
			針路	針路	速力	速力		
発見時	九、五五、	八〇〇米	E^bN	不明	九	不明	NNW	
襲撃時	九、五六、	四三〇、	〃	E^bN	〃	〃	N	有効
発見時	一〇、〇〇、	一〇〇〇	E^bS	不明	〃	〃	NNW	
襲撃時	一〇、〇三、	二四〇、	〃	E^bS	〃	〃	N	薄雲
発見時	一〇、〇五	一二〇〇	〃	不明	一二	一二	NW	不明
襲撃時	一〇、一四、	二六五	E^bS	E^bS	一二	一二	SW	連
発見時	一〇、一五、	一五〇〇	〃	不明	九	不明	NNW	有効
襲撃時	一〇、二八	四八〇、	〃	N^bW	〃	〃	SW	有効

0369

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

四月二十五日　艦長訓示、総員、於後甲板、鎮海湾

一、前部砲塔員ヲ呼出其ノ艦砲射撃、戰闘射撃ノ両間共
全命中ニ対スル長官ノ讃詞傳達　并ニ将来益々勉励好
成績ヲ得ヨトノ希望、

二、今朝ノ射撃ニ就テ、

一、本日前施行シタル本艦六吋砲ノ減装薬戰闘射撃成績
頗ル不良ナリキ是レ全ク射手ノ罪ニアラズシテ原因探究ノ
結果其ノ装薬ノ不良ナリシニ依ルヲ知レリ、蓋シ此度本艦ニ
於テ使用シタル六吋砲減装薬ニハ褐色、礫子、丘丈丘ノ三種
アルノミナラズ其ノ或ルモノハ昨年出征前ニ受取リ或ルモノハ出征後
ニ受領シタル抔搭載年月ヲ異ニシ加ヘニ屢々操練ノ際上下
シテ震盪セシメタル為メ其ノ質ヲ変ジ弾丸ノ初速均一ナル得
ザリシヤ必セリ　又弾丸ヲ操練用トシテ使用シ其間或ハ他物ト

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

接觸シテ導鑑ヲ毀損セシメタルモ敢カラザリシヲ以テ射撃前特ニ手入レヲ為サシメタルモ剛成遺憾無キ能ハザリキ今回ノ射撃成績ノ不良ナリシハ実ニ坎等ノ原因ニ基キ次ニ射手ノ責ニ非ザルヲ以テ敢テ失望スル事無ク唯念ヲ益々内筒砲射撃ヲ励ミテ射撃成績ノ良好ナラム事ニ努メヨ、

一、十二尉砲ハ成績良好ナリキ、是レ操練ノ際其ノ装薬ヲ出サザルヲ以テ薬質ヲ変ズル事無ク、又弾丸ノ導鑑モ之ヲ毀損スル機會殆ンド皆無ナリシヲ以テ坎ノ成績ヲ得タルト信シテ可ナリ換言スレバ弾薬ニ異状ナシテ熟練ノ射手ヲ以テスレバ百度百中ヲ期スル丁ヲ得今日ノ前部砲塔長及次長ノ四度中悉ク命中セシメシハ実ニ最優等ニシテ熟練ノ程度感服ノ外ナシ司令長官モ亦特ニ賛詞ヲ受ケタリ尚一層訓練ヲ重ネ百度百中ヲ期セン丁ヲ望ム、

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

(三)

今夜ハ第三駆逐隊司令ノ協議ニ依リ本艦ト駆逐隊ノ襲撃演習ヲ施行スル筈ニシテ其時刻ハ不明トス、尾ヲ駆逐艦水雷艇ノ来襲ヲ防ク困難ハ能ク監視シテ先ツ之ヲ発見シ次ニ精確ニ距離・諸頭ヲ決定装備スルニ在リ 今此等ニ就キテ二三ノ注意ヲ與ヘム、

一、艦橋ニ於テ号令スル照尺ハ六千碗ヲ基準トスルガ故ニ従来四七密砲ニテハ二百米突ノ増加改正ヲ為シタルモ尚ホ自今ハ十二吋四七密砲共ニ是レガ改正ヲ為ス事ニ決定ス、其他量ハ追テ砲術長ヲ経テ示スヲ可シト雖モ不敢敢決定スル次ノゴトシ、

四七密重砲ハ二千米突以外ノ距離ニ於テハ二百米突増加スル

仝 軽砲ハ仝 二百五十米突乃至三百米突ノ増加スル

十二吋砲ハ仝 百米突乃至百五十米突ノ増加スル

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

但シ右距離ノ遠近ニ隨テ改正ヲ要スルモノトス、

一、今夜ハ吉方面警戒中ノ事トシテ別ニ探照燈ヲ矣ゼザル所存ナリ

尺ノ探照燈ハ敵ニ對シテ本艦ノ存在ヲ秘スル場合ハ可及的照サザルモ有利トス故ニ現ニ敵ヲ追従サレツツアル時ハ兎ニ角モナレ共然ラザレバ之ヲ照サザルヲ可トス、又仮ヒ敵ト接觸セルモ月夜ナレバ其ノ照不照ハ要スルニ其時機ニ関係ス、今夜ハ即チ其ノ照ヲ至不利トスル演習ヲナサントスルナリ、既ニ探照燈ヲ矣ゼザレバ赤喇叭ヲ用ヒズ　号令モ可及的低声ナラム事ヲ要ス、

一、艦橋ヨリノ号令ハ六寸砲ニテハ通報器ヲ用ヒ、中甲板士官砲ニテハ傳声管ヲ用ヒ其他ハ低声ニ言令ヲ以テス　何レモ六寸砲ヲ基準トスルモノニシテ為ニ得ベクンバ菊頭ニモ令セントス

菊頭ハ敵艦ノ方位ノ変遷其艦首ニ起ル白波ノ程度等ニ由リテ僅ニ決定シ得ルモノナリ、

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

一、今夜ハ暗闇裡ニ照尺、苗頭ヲ装備スルノ方法ヲ練習研究スベシ又六月砲ニ在リテハ受令ヲ間報器ノミニ信頼スルノ秘訣ト為スナリ

但シ探照燈ヲ点ズル場合ニ在リテハ実ニ此ノ顧慮ヲ要ス、

一、駆逐艦ノ司令杯ヨリ間ノ所ニ出レバ探照燈ヲ点ズル時ハ其ノ前後ノ二個ニ出リテ艦長サヲ知リ又艦隊ノ方向、針路ヲ略知スルニ難カラズト言フ果シテ然ラバ先達テ誤テ点ズレセシガ如キ事ハ断ジテ無キ様厳ニ注意ヲ要ス、

此ノ演習ハ二度ヲ高ス能ハザルヲ以テ充分精神ヲ込メ出来得ル限リ多クノ事項ニ就テ研究修得スル事ニ心掛ケシ、

(四)夜中戦闘ニ於ケル第一ノ準備ハ釣床ノ始末ニシテ「ケース」内ノ文ハ之ヲ出シ其他ハ「ツライス、アップ」スル事配置ニ示スガ如シ、猶ホ新水兵ノ者ノ中ニハ未ダ知ラザル文ノ文アルベケレバ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

役割副長ヲシテ是ガ要領ヲ説明セシム、

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

四月二十六日 水曜 午前曇、午后晴、 区々ノ風力一、

午前八、四五、 艦載水雷艇ニテ水雷発射施行 鎮海湾、

雑業、

午后一、一五、 内筒砲射撃及雑業

仝 三、四〇、 右舷后部水雷発射

夜間八直哨兵、

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

四月二十七日 水曜、晴、午前少霧アリ 区々風力一

鎮海湾

午前九、三〇、 水筒砲射撃、雑業、信号秋吉古、

午后一、一五、 右仝、

仝 五、三〇、 右仝、及雑科

夜間八直哨兵、

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

四月二十八日　金曜、晴、五ノ風力一

鎮海湾

午前七、一五、甲板上ノ石炭運搬ニ伴付ク、

仝　一〇、〇〇、艦長巨東通報器、艦内号令傳達ニ付訓諭（准士官以上）甚要領次ノ如シ、

午后〇、五〇、徳昊ニ艦長訓示アリ甚要領次ノ如シ、

仝　一、五九、軍紀風紀

仝　二、五三、右整備次ヲ軍紀操練、

仝　二、五九、右整備次ヲ准士官以上艦長ニ隨ヒ艦内巡視軍紀風紀ニ就テノ講評ヲ聽ク、

仝　四、三五、右終ル

仝　五、二一、徳昊各分隊長ニ從ヒ艦内巡視軍

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

閣用意ニ就テノ説明ヲ聽ク、

午后七、一一、右終ル次テ鞍閣用意復旧、

夜間八直哨兵、

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

四月二十八日　艦長訓示、準士官以上、於後甲板、　鎮海湾

(一)
艦内通信装置ニ就テ、

一、過日ヨリ屢々距離通報器ノ試験ヲナシ其成績ヲ見ルニ豫想ヨリ悪シカラズ　抑々艦内通信装置ガ戦闘中大ニ大切ナル事ハ詳ニ考フルコトニシテ各艦ニ於テモ是レニ就キ其々慧慮工夫スル所アルヲ見ル然レドモ艦砲射撃中本職ノ観察スル所ニテハ一枚ニ一時的ノ配置ナルガ如シ仮ヘバ后部中甲板士官砲傳令スルニ其ノ間ヲ通シテ為スガ如キ艦砲射撃中ニ於テハ甚タ実戦ノ場合ニハ到底為ス能ハザル処ノナリ、

本艦ニテモ現今ハ候補生ヲ以テ各砲台士官ヲ配置シ得レドモ本艦ノ定員ノミヲ以テシテハ不能ニ属ス、然ラバ即チ砲員ノ一人ヲ通信用トシテ傳話管ニ附ケ艦橋ヨリノ号令ヲ減レ乗ク聴取セシメザル可ラズ、然レドモ其人聴ニ熟心ナラ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ザレバ或ハ聴聞セラレタル生ジ来ル誤謬ヲ傳フ可シ　先達テノ距離通報若ハ試験成績敢テ不良ナルニ非ザルモ尚本職ノ憾ラザルモノアリ

仮ヘバ「十里右苗頭」ガ全砲台ニ於テ「八里左苗頭」又ハ「三千五百米突」誤リタルモノアルガ如キ、前者ハ司令塔傳令者ノ誤ニシテ後者ハ傳話管ノ誤聞ナリ、若シ実際ノ場合ニ於テ射距離ノ此ノ誤差ヲ以テ発砲スル時ハ敵艦ヲ打タム事思ヒモヨラズ　弾着種々ニシテ其ノ修正ヲ為ス能ハズ　平素ノ水雷砲射撃モ遂ニ何ノ効モナカラン可シ　其ノ結果タルヤ実ニ寒心ノ至リナラズヤ、勿論各分隊ニ於テ其レ〴〵訓練アルベシト雖モ本職ガ時々巡検シテ検スルニ斯ノゴトキモノ往々アリ、分隊教育ニ於テ此種ノ事項ノ如何ニ大切ナルカヲ下士以下ノ頭脳ニ浸入セシメ益々其ノ職ニ熱心ニ其ノ業ニ熟練セシムル事ヲ希望ス、

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

一、毎軍事矢検及砲台操練ニ距離通報器ヲ試用スルモノ数ニ
ヶ月而シテ其成績表未ダ出ズ、凡ソ艦内ノ通信装置ガ
前述ノ如ク重大ナル思ハバ其ノ成績表ノ如キハ促サルニ先チテ
提出セザルベカラズ、蓋シ操練ハ其ノ結果ノ成績ヲ示シテ始メテ
衆ノ注意ヲ喚起シ得ベク然ラバ其ノ成績ヲ熱心ニ作ル
人有ラザル可ラザレバナリ、夫レ善良ナル器械ハ其ノ使用
者ノ注意巧妙及ビ熱心ニ依リテ始メテ其ノ効果ヲ奏シ得
ベク又修理ヲ為シ得ベシ、彼ノ航海中回轉指示器故障
ノ修理シ得ラレズト言フガ如キ奥責任ノ極ト言フ可シ然ラ
事ハ為シ得ル手段ヲ施シテ始メテ成シ得ルモノニシテ手段ヲ施
サズレバ更ニ為シ得ラレザル可シ要ハ其ノ人ノ熱心ニ存ス、本職
ノ希望スル所ハ目下使用スル器具ヲシテ一モ不用ノモノ勿ラシ
メ之ヲ使用シテ熱心熟練セシムルニ在リ、是ハ各科業ヲ分チ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

責任ヲ擔ヒテ平素ヨリ完全ノ期シ如何ナル場合ト雖モ更ニ
遺憾無カラシムル可キナリ、
右ノゴトキハ之ヲ面前ニ述ブル時誰ニモ首肯スル所ナル可シ、然レドモ
時日経過スルニ従ヒ其ノ観念漸ク薄ラギ熱心ヲ缺クニ至ルベシ
故ニ訓示ニ訓示ヲ重ネ之ヲ刺戟スルコト屢々ニシテ常ニ其心ヲ
心ニ保タシメ得ベシ自今分隊長ハ其ノ実際ノ戦時ヲ豫
想シ斯ノ号令ハ斯ノゴトク令スベク斯ノ誤失ハ斯ノ結果ヲ
惹起スル事ヲ考ヘ軍事点検後其他分隊教育ニ於テ
充分ノ訓練アラムコトヲ望ム毎軍事点検後手分間僅
少時間ト雖モ其ノ熱心ノ程度ニ依リテ大ニ成績ヲ挙グルヲ
得ベシ自今距離通報器ノミナラズ銃ノ傳話管ヲ試用ノ
際聴取シ得ル所ヲ記註シ置ク事ニ決定ス又傳話管ノ
分岐セルヲノハ兎角混信シ易シト雖モ而モ尚ホ耐ル程度迄ハ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

其ノ何ノ号令ニシテ何レノ方面ヨリ来ルモノナルヤヲ聴キ分ケ得レシ要ス
実ニ機砲、爆弾ノ響喧々囂々タル裡ニ種々ノ号令ヲ奥エ
能ク分隊長ノ意ノ如クナラシメントセバ一ニ傳令者ノ沈着熟練
及熱心ニ俟タザル可ラザルナリ、

(二)、合戦準備ヲ為シタル後更ニ戦闘ニ迫リ其真際ニ於ケル中下甲
板ヲ巡視セントスルヽ由来本職ノ希望ニシテ未ダ能ハザル所ナリ
本日ハ戦闘準備ヲ為シ各士官ヲ率ヰテ之ヲ巡視シ良不良
ノ各部ヲ指摘シテ一々其ノ理由ヲ了解セシメテ以テ戦闘準備ノ
最良法ヲ決定シ下士以下モ亦是ガ巡視ヲ為サシメントス蓋シ戦
闘ノ際ニハ種々防水扉防水蓋等閉鎖セラレテ艦内ノ通路
自ラ制限セラル、此時ニ当リ艦長其他分隊長抔ヨリ中下
甲板以下ニ使者ヲ命ゼラルヽ者ハ其ノ何レノ場所ニ至ルニハ
何レノ通路ヲ取ルベキカヲ知ラザレバ能ハズ、即チ自己ノ受持

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

以対ト為ニ戦争ニ用意ニ於ケル艦内ノ状態ノ熟知スルノ要アルベシ、

(三)本日ノ士官呼集ニ於テ準士官ノ遅カリキ之レ号令ノ間ニアザル故ヲ以テ説ニ予ヲシテ之レヲ言ハシムレバ号令間ニアザレバ自ラ其レニ対スル工夫ヲ為スト共ニ意識ヲ言出スベキナリ、世人ハ本職ヲ以テ性急ナリトスベレ然レ共海軍ノ事業ニ於テ時機ヲ失スル時ハ素ヨリ機用ス可ラザル不良ノ結果ヲ惹起スルガ故ニ其ノ處置ニ対シ機ヲ失セザラシムガ為メ常ニ其急速ヲ促ス、蓋シ世人ノ所謂性急ト趣キヲ異ニスルモノ大ナリ、凡ソ事神速ヲ尊ブ、戦ノ起ル久レキ前ニ其準備ハ已ニ完全ナラザル可ラズ、機真ニ迫リテ周章狼狽スルガ如キハ本職ノ大ニ好マザル所ナリ、此際準士官ト言ハズ候補生ト言ハズ艦内装置ヲ実験シ不都合ナリト認メタル個所アラバ直ニ申出デ決シテ其儘ニ看過ス可ラズ、又前述ノ主意ヲ下士以下ニモ伝達シ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

常ニ其胸ニ保持セシムル可シ、然ル時ハ従ツテ操練ニ趣味ヲ感ジ
其ニ時間ヲ退屈セシムル事無ク訓練ヲ為スコトヲ得大ニ効
果ヲ収ムルヲ得ベシ、

(四)戰闘ノ準備ニ関シテハ各艦共ニ種々ノ工夫ヲ凝ラセリ但シ其主
意トスル所ハ何レモ砲煙ノ効力増大シ敵弾ノ損害ヲ
減少ナラシムルニ在リ、茲ニ艦ガ前部「セルターデッキ」ト二所砲ノ揚弾
筒ヲ通シテ「ベルムシレグナル」ヲ設ケ傳話管ヲ用ユルコト英クシテ
艦橋ヨリ操舵ヲ弾薬通路ニ令シ得セシムルガ如キハ有
効ナルモノトシ尚各艦ヲ見学シテ認ムル所甚カラズ、手後
戰闘準備巡視ノ際ハ之ヲ実際ノ個所ニ適合
セシメ其ノ良否ヲ研究、決定スル所在ルベシ、

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

今月今日　艦長訓示　総員　於後甲板　鎮海湾

一、先夜駆逐隊襲撃演習ノ際ニハ探照燈ヲ矣ゼズシテ盛カニ之ヲ防禦スル操練ヲ為セリ、蓋シ夜間ノ視力ト通信装置ト試験ナリ、該時通信ノ成績ヲ録シテ見ルニ豫想外ニモ良好ニシテ就中一番二番士官砲ノ如キハ全矣ナリ、然レ共時ニ十運右舷ヲ八運右舷ニ照人千五百米突ヲ二千五百米突ニ誤リタルガ如キモノアリ、斯ノゴトキ其結果スル所大ニシテ敵艦ヲ打ツコト能ハザルノミナラズ弾着ノ修正モ全然不能ニ属シ如何トモ為ス可ラズ恐ルベキナリ、凡ソ砲術ニナザレバ艦内ハ静粛ナルヲ以テ号令ハ一モ減ラス事実ノ聴取シ得ル可シ而モ意ノ通ゼザルハ注意薄ク熱心足ラザレバナリ、本職ハ親シク実験シテ此目的ガ注意ト熟練トニ由リテ完全ニ達セラレ又傳話管附近ニ於ケル無益ナ言語ガ甚シク是レガ妨害ヲ為スコトヲ発見セリ、故ニ傳話管

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

配置ノ者ハ熟心ニ熟達ニ務メ片時モ注意ヲ怠ル事勿レ又傳
話管附近ニ在ルモノハ饒舌ヲ慎ミ其ノ妨害ヲ与フ可ラズ、

(二)

本日施行スベキ戦闘準備ニ就テ、

一、本日ハ充分ナル戦闘準備ヲ行ヒ最初ニ官吏ニ下士以下ヲシテ
番ノ艦内ヲ巡視セシメムト欲ス 是レ真ノ戦闘ニ際シ中下甲板ノ何處カニ
使者命ゼラル、時何レノ防水扉閉鎖シアルヤ何レノ通路ヲ経
由スルヤヲ知ラザレバ行クコト能ハズ 故ニ行クコトヲ得ル迄時間ヲ要シ
事大ニシテ大切ナル機會ヲ逸スルコトアルガ故ナリ 要ハ何人ッ
用ヒテモ直ニ事ノ處弁ヲ得ントスルナリ、

一、由来屢々言ヘルコトノ通信装置ハ艦内ノ凡ユル大切ナル地
各艦ニ伝話管配置補缺ノ制ヲ設ケタ一度缺員
生ズレバ誰ヲシテ其ノ交代ニ行カシムルヤハ知ル可ラズ 故ニ何人モ通
信系統ノ有様ヲ研究熟知置ク要ス、是レ各自ノ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

注意す、

一、通信器ニ対シテハ甲破ルレバ乙、乙破ルレバ丙等之ニ代ルベク豫備ノ準備シ置クヿ、

一、本日戰鬪用意操練ヲ大ニ單ニ局ニ当ルノミニテハ何ノ効ナカラザレバ夫レ之ニ注意シ以テ観衆ニ苟ニ不良ヲ認メバ直ニ改善ヲ計ルヿ、要ハ敵弾ニ由リテ被ル損害ヲ極メテ敵ニ與ヘル打撃ヲ大ナラシメントスルナリ、凡ソ不撓ノ精神ト熱心ナル尽力トハ如何ナル事ヲモ成シ遂ゲラレム・故ニ仮ヘバ敵弾ヲ受ケテ実際ニ浸水スル場合等ニ於テモ直ニ是レニ適合スル臨機應変ノ處置ヲ施シ「損害如何」ノ問ニ對シテハ直ニ「大丈夫」ナル回答ヲ為シ得ルノ覺悟アラム事ヲ希望ス、

(三)、檣楼見張ハ重ク田島沖ニ於テ浮流機械水雷ノ頻繁ナル時之ガ危険ヲ避ケム為ノ制定スル所在リシガ今日ハ戰鬪中ノ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

為ニ再ビ之ヲ定ム、彼「セバストポリ」艦長ノ報告書ニ曰ク「ポトロパーブロフスク」ハ我ガ連繫機械水雷ニ罹リテ沈没セリト又曰ク八月十日ノ戰ヒ我レ彼レノ艦隊ヲ横切リテ水雷ヲ投下シタル為メ其レヲ避クベク大ニ運動ノ困難ヲ感ジタリ云々トアリ、我レ未ダ曾テ連繫水雷ヲ実用ニ供シタルコトナシ又敵艦隊ヲ横切リテ水雷投下ヲ為シタル事ナシ、而モ彼敵ヲ之ヲ口ニスルヨリ察スルニハ彼レニ斯ノコトキ手段ノアルヲ知ル可シ、然ラバ戰鬪ノ進行中我ハ是レニ対シテ充分ナル警戒ヲ加エザル可ラス即チ櫓楼見張リノ任起ル、蓋シ重大ナリト言フ可シ、又潜水艇ニ関シテハ後刻水雷長ヲシテ説明セシムル可キヲ以テ能ク記臆シ戰鬪ノ際海上ニ浮ブ一小木片ト雖モ尚ホ見逃ガス事ナカラムコトヲ期セヨ、

(四)敵ノ情報告知并ニ艦隊ヲ愈々新編成ノ件

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

過セリト言フ、彼ノ茅ニ茅ニ艦隊合同セバ必ズヤ大挙シテ来ル可キハ(必)迫セル其徐ニハ兼々抵抗ハルガ如ク堅固ナル此精神ト訓練セル此手腕トヲ以テ忽チニシテ彼レノ全艦隊ヲ粉砕シ去ル事ヲ望ムニアリ、

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

四月二十九日、土曜、晴、区々ノ風力一、

鎮海湾、

午前八、〇五、戦闘用意、

仝 八、五六、右整備、

仝 九、四〇、艦長ノ講評ニ基キ戦闘用意

完備ノ為メ雑業、

午后 一、一〇、戦闘操練、防火、防水、操舵機

夜操練等施行

仝 三、〇五、戦闘用意、

仝 三、四〇、右整備解散、

夜間八直哨兵、

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

四月三十日　日曜　雨　昏ノ風勢ロ弱ク

午前七、四五　日課手入終ル入浴遊戯ヲ許ス　鎮海灣

午后　休憩

夜間八直哨兵

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp